

指針第1号様式

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,879	t-CO <sub>2</sub>
①を （温室除く 二酸化炭素 換算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		1,879	t-CO <sub>2</sub>

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 令和9年度			
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総排出量	1,879	t-CO <sub>2</sub>	1,879	t-CO <sub>2</sub>	0.0	%

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 令和9年度			
			目標排出量		目標削減率	
原単位当りの 排出量		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		%

(2) 目標設定の考え方

本学でのエネルギー需要は以下2点の理由により増加していくと想定している。  
 ①新型コロナ対策による活動制限の段階的緩和による、授業・学会・イベント等でのエネルギー需要の増加  
 ②教職員の増員によるエネルギー需要の増加  
 これらのエネルギー需要増加分を省エネ活動で吸収し、令和6年度と同等の排出量を目標としたい。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネ・省資源行動の実践	(空調) ・中央監視システムを用いた空調運用管理の徹底 ・空調運用ルールの定期的な見直し ・ブラインドやサーキュレーターなどの啓蒙 ・空調フィルターの定期清掃	全学的な取組の実施・継続
	(照明) ・昼休みや残業時の不要な照明消灯の徹底 ・照明運用の定期的な見直し	全学的な取組の実施・継続
	(換気) ・在室時換気の運用徹底 ・長期連休中など不要な場合の停止徹底	全学的な取組の実施・継続
	(O A機器) ・パソコンに省エネモードの設定 ・O A機器を購入時は省エネ型を選定	全学的な取組の実施・継続
	(車両) ・業務車両更新時は、FCV・PHV・低燃費を選定	全学的な取組の実施・継続
	(エレベーター) ・階段利用を啓蒙	全学的な取組の実施・継続
	(自家発電) ・太陽光発電設備の運転開始	全学的な取組の実施・継続

## 指針第1号様式

### (2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

#### ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	30 %

#### イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

2025年6月末に太陽光発電設備の運転を開始した。大学構内出力は約303kW、久方寮出力約123kWである。今後は、当該太陽光発電設備から発電される電力（非化石エネルギー）の利用により、環境負荷の軽減に期待したい。

### (3) 環境価値（クレジット等）の活用

### (4) その他の地球温暖化対策に係る措置

- ・ペーパーレス化の推進
- ・コピー用紙の効率的な利用
- ・廃棄物の適切な分別回収

### (5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

- ・空調運用状況の点検
- ・業務用車の点検